令和4年（2022年）
5月31日
第 777 号
発行
学校法人文京学院
http://bgu.ac.jp

文京学院

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学院
文京学院大学外国語学部・経営学部・人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301

大学

教育環境の更なる充実へ 各種連携協定締結

本学は、地域振興・人材育成・社会貢献・大学等の教育への拡充を目的とし、双方有益で継続性のある教育連携協定を推進しています。

レイクランド大学ジャパン・キャンパスと包括協定締結

4月22日、本学とレイクランド大学ジャパン・キャンパス(学長:エリザベス・ボーゲン)との、包括協定が締結されました。

同大学は1862年に米国ウィスコンシン州に設立されたリベラルアーツ大学で、米国大学認定協会(HLC)の認定を受けた文部科学省指定の外国大学日本校です。協定締結により、本学学生が、日本にいながらにしてアメリカの大学経験を「国内留学」を通してできるようになります。さらに、本学の学生には英語力次第でアメリカ本国のレイクランド大学に編入する道も開けます。電車で約30分の距離にある互いの大学間で、教育プログラムの連携やサークル、イベントなどの課外活動を通した交流を図ることで、多様な価値観や異文化を持つ学生が相互に刺激を与えながら共にグローバルな学びを実践することが可能となります。

大学間での研究・学術交流をはじめ、学部・学生間による交流等幅広い視点で新しい形態のグローバル大学間交流を目指していきます。

レイクランド大学ジャパン・キャンパスで実施された締結式

文京区立第六中学校との教育連携に関する協定締結

本学外国語学部と文京区立第六中学校との教育連携に関する協定調印式が、3月22日に本郷キャンパスにて実施されました。当日は、小椋孝文京区立第六中学校校長（当時）と鵜浦裕外国語学部長・教授が協定を締結しました。

本協定は、外国語学部が地域貢献活動の一環として推進するもので、文京区の公教育と連携すると同時に、同学部生と同校生徒との外国語を通した体験型学習の機会の拡充をはじめとした直接的な相互交流を目的としています。以前から、文京区立第六中学校による本学施設を活用した行事の開催、2021年度夏期からの外国語学部生による試験的な英語授業ボランティアや、本学教授による出張授業などで実質的な交流が進められていました。

今後も、本学はグローバル化に対応した教育環境作りを強化し、学生の学びの視野が広がる活動を推進していく中で、近隣の公立小学校・中学校・高校を対象に、教育連携先の拡大を目指します。

鵜浦外国語学部長（左）と小椋第六中学校校長(右)

東洋学園大学との課外活動等における相互交流に関する協定締結

本学と東洋学園大学との課外活動等における相互交流に関する協定締結式が、4月13日に本郷キャンパスにて実施されました。本協定は、開かれた大学としての更なる発展にむけ、また、課外活動等における学生支援の一層の充実を目的としています。

両大学は、2021年度より単位互換や、学生・職員によるオンラインでの意見交換会等により交流を続けており、課外活動において更に連携を深めるために協定を結ぶこととなりました。今後は両大学の学内行事、課外活動、地域社会との連携活動等を通して学生の教育や諸活動を支援し、学生間交流の活性化を目指します。さらに、教職員間でも学生支援体制改善のために、意見交換や研修等を通して幅広い交流を図っていきます。

当日は、辻中豊東洋学園大学学長、櫻井隆学長が協定を締結。櫻井学長は「単位互換協定から始まり課外活動協定へ、まさに点から線へ、線から面へと両大学の交流が進展していることをうれしく思います。今後は面から立体へとなるように関係を発展させていきたいと考えております」と述べました。

櫻井学長（左）と辻中東洋学園大学学長(右)

都立千早高等学校と高大接続に関する包括連携協定締結

4月15日、本郷キャンパスにて教育活動への相互理解を深め交流・連携を図ることを目的に本学と都立千早高等学校との高大接続に関する包括連携協定が締結されました。

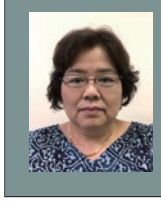
都立千早高等学校からは多くの卒業生が入学しており、入学後は本学の様々なプログラムにおいて、積極的かつ意欲的に活動しています。都立千早高等学校での教育目標・施策と本学が実施しているプログラムには共通点も多く、今後一層の教育上の連携を図ることが教育成果を高めると判断し、締結に至りました。

今後は、高校生の視野を広げ、グローバル教育とビジネス教育における学習意欲を高めるとともに、進路に対する意識の向上を目指し、また本学学生の成長の機会を創出し、教育活動への相互理解を深めつつ交流・連携を図っていきます。

当日は、都立千早高等学校小塩明伸校長と同校卒業生、櫻井学長らが出席し、和やかな雰囲気の締結式となりました。

包括連携協定締結式

GREEN SPIRITS



多様な価値観をリスペクトできる存在に

保健医療技術学部長・教授
神作一実

保健医療技術学部の4学科で取得を目指す、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、看護師、保健師はいずれも医療・保健分野で活躍する対人援助職です。私たちは患者さんや対象者といわれる、支援が必要な人たちに対して、各専門領域に求められるアプローチを行っていきます。学生は、各専門領域に必要な知識・技術・コミュニケーション能力を4年間の就学期間を通して、基礎から学んでいきます。

現在の医療・保健の領域における対象者のニーズは複雑で、長期的な関わり、多面的な支援が必要になってきています。そのため、単一職種では全く対象者のニーズに応えることはできません。学生は自学科で取得する職種に必要な知識・技術・コミュニケーション能力を学ぶだけではなく、多職種連携の中でどのように問題を解決するかという、問題解決能力も学んでいく必要があります。そのためには、学生は自学科の職種の専門性を高めるのは当然のことですが、多職種連携をする自分以外の職種に対する理解を深める必要があります。自分以外の職種の業務内容に対する知識だけではなく、自分とは異なった価値観や問題解決方法を持っている人たちへのリスペクトができるかどうかが、多職種連携には不可欠です。対象者と協働多職種両方に対して、相手の価値観を受け入れることは、対象者を中心としたチーム医療の根幹をなすものだと考えています。

10代後半から20代前半という、多くのことを吸収できる柔軟な時期に、学生は、知識や技術だけではなく、自分と相手の両方を大切にすることを学んでいく必要があります。2019年度本学保健医療技術学部FDで講師をされた東京慈恵会医科大学 教育センター教授 福島統氏から「医療職としてふさわしい人格を保証するのは養成施設である」というお話を伺いました。私たち教職員は、学生の学びを支援しながら、社会人として、医療・保健分野の専門職として、相手をリスペクトする姿を学生に示し、学生が人として成長する上でよきモデルでありたいと思います。

中学

修学旅行で深まった仲間との絆

マスク着用、手指消毒、黙食など、コロナ禍での制約の多い中、中学校では修学旅行が実施され、中学3年生が、4月19日から21日にかけて、関西方面で日本の伝統文化にふれてきました。

初日は、奈良県に入り、法隆寺と興福寺、そして東大寺を見学しました。2日目の午前中は「金閣寺コース」「平等院コース」「嵐山コース」と分かれて見学しました。午後は、班別研修を行い、事前に生徒たちで調べて決めたコースを巡りました。最終日は、USJで楽しい時間を過ごしました。3日間という短い期間ではありましたが、新しいクラスのメンバーとの交流も深まり、クラスそして学年としての絆を深めることができた修学旅行となりました。生徒から次のコメントが寄せられました。

岩﨑文音（栗組）

この3日間で、たくさんのことを学びました。1日目には世界遺産である五重塔や、国宝の大仏などを間近で見ることで、新しい発見やより深く歴史について知ることが出来ました。2日目には各班で京都の街を散策し、私の班は祇園などへ行きました。古い街並みを自分の目で感じ、地元の穏やかな雰囲気の人とお話をしたりとても貴重な体験でした。修学旅行を通して、集団で行動する難しさを感じ、友だちとの仲も深まりました。

鶴岡優菜（栗組）

1日目に行った東大寺の大仏の大きさに圧倒されました。ガイドさんに説明していただき、建築の歴史についても知ることができました。2日目に訪れた清水寺では、展望台からの美しい景色に感銘を受けました。3日目のUSJでは、楽しすぎて終始胸が高鳴っていました。コロナが蔓延している中で入学した私たちは、今までいろいろな行事が中止になったため、より思い出に残る修学旅行となりました。

PHOTO GALLERY

修学旅行 フォトギャラリー

中高

日本・エジプト交流会実施

3月16日、本校生徒とエジプトのEl-Galaa校の生徒が、SDGsの課題解決に共に取り組む「2022年日本・エジプト合同高校生サミット キックオフ交流会」が実施されました。本サミットは、文部科学省「日本型教育の海外展開（EDU-Portニッポン）」が実施する「公衆衛生教育等の海外展開に関する調査研究」の1つです。当日は、本校からは中3生から高2生までの生徒14名と、El-Galaa校からは日本の高1生から高2生にあたる14名の生徒が参加し、学校紹介やコロナ禍の生活で気を付けていることなどをプレゼンテーションしました。参加した本校生徒から次のコメントが寄せられました。

「お互いの自己紹介、学校紹介ビデオなどを見ることは、とても新鮮でした。また、多くの日本語をエジプトの生徒に紹介できたことが嬉しかったです！コロナウイルス感染症拡大の影響により、このような交流会が直接行えないのは残念ですが、画面を通して対話や質疑応答が出来たのはとても有意義な時間でした」（理数クラス・国際交流委員）

交流会の様子

大学

映画『HARD BLUE 蒼穹 』劇場初公開

経営学部の公野勉教授ゼミナールに所属する学生20名が6年の制作期間と、3年の準備期間を経て完成させた映画『HARD BLUE 蒼穹』が、3月26日から4月1日迄、新宿の映画館「K's cinema」にて初上映されました。今回の上映は、公野ゼミの学生がゼミ活動の一環として「K's cinema」に映画配給の企画書を提出し、何度か交渉を行いながら上映が実現しました。上映終了後には櫻井隆学長より学生の育成への多大な貢献に感謝し、「K's cinema」に感謝状を贈りました。公野教授と学生から次のコメントが寄せられました。

【公野教授コメント】

2013年に公野研究室に在籍した学生らが撮り、次代の後輩学生らが修復して完成した2019年の映画祭招待作品が、さらにその後輩たちが配給、『HARD BLUE 蒼穹』として公開されました。代々の学生がバトンを受け継ぎながら、9年をかけてたどりついた成果です。「創るだけではなく届ける」事が本学の唯一性の高いコンセプト。商品である以上、撮影するだけではなく、観客に届けてこその映画です。学生が受け継いできた想いを劇場で御覧頂きありがとうございました。

【学生コメント】

コロナ禍で活動が制限され、思うようにゼミ活動が行えない中で「このままではいけない」と発足したのがこの映画配給プロジェクトでした。経験者がいないことに加え、目まぐるしく変わる興行情勢により、思うように進まず困難だらけでしたが、大学の支援とゼミ生同士の支え合いによって、公開までたどり着くことができました。映画公開を通して作品の感動と、大学生もコロナに負けず頑張っているという姿が大勢の方に届くと嬉しいです。

櫻井学長（中央右）より「K's cinema」支配人酒井正史様（中央左）への感謝状を贈呈

学生が制作した『HARD BLUE 蒼穹』チラシ

映画のワンシーン（上下）

ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん
第82回
画：美術部（高校）雪亜